

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 7 部門第 1 区分  
 【発行日】平成 19 年 3 月 1 日 (2007.3.1)

【公開番号】特開 2005-203173 (P2005-203173A)  
 【公開日】平成 17 年 7 月 28 日 (2005.7.28)  
 【年通号数】公開・登録公報 2005-029  
 【出願番号】特願 2004-6596 (P2004-6596)  
 【国際特許分類】

**H 0 1 J 65/00 (2006.01)**

**H 0 1 J 61/30 (2006.01)**

【F I】

H 0 1 J 65/00 D

H 0 1 J 61/30 Z

【手続補正書】  
 【提出日】平成 19 年 1 月 15 日 (2007.1.15)  
 【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】特許請求の範囲  
 【補正対象項目名】全文  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【特許請求の範囲】  
 【請求項 1】

希ガスを主体とする放電媒体が気密性容器の内部に封入され、  
 第 1 の電極が前記気密性容器の内部に配置され、  
 反射面を有する第 2 の電極が前記気密性容器からの放射光を放射するための開口を備える  
 とともに前記気密性容器から所定の間隔をあけて配置され、  
 前記所定の間隔を保持する絶縁性のホルダーが前記気密性容器に外嵌される放電装置にお  
 いて、

前記ホルダーは気密性容器を挿通する貫通孔を備えるとともに前記第 2 の電極が配置され  
 る箇所に突出部を備え、

前記第 2 の電極は、前記ホルダーの突出部と嵌合する嵌合穴を形成したものであることを  
 特徴とする放電灯装置。

【請求項 2】

気密性容器の挿通方向における前記ホルダーの寸法 a と、同方向における突出部の寸法 b  
 との関係が  $a > b$  に設定されていることを特徴とする請求項 1 に記載の放電灯装置。

【請求項 3】

気密性容器の挿通方向における前記ホルダーの寸法 a について、気密性容器からの放射光  
 を放射する側における寸法  $a_1$  と、第 2 の電極が配置される位置における寸法  $a_2$  との関係  
 が  $a_1 < a_2$  に設定されていることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の放電灯装置。

【請求項 4】

前記ホルダーは、透明な材質で気密性容器とほぼ同じ長さに形成されていることを特徴と  
 する請求項 1 に記載の放電灯装置。

【請求項 5】

前記第 2 の電極は、前記気密性容器から所定の間隔をあけて前記ホルダー内に埋め込まれ  
 ていることを特徴とする請求項 4 に記載の放電灯装置。

【請求項 6】

希ガスを主体とする放電媒体が気密性容器の内部に封入され、第 1 の電極が前記気密性容  
 器の内部に配置され、

第 2 の電極が前記気密性容器から所定の間隔をあけて前記ホルダー内に埋め込まれ、絶縁性のホルダーが透明な材質で気密性容器とほぼ同じ長さに形成され、かつ、気密性容器を挿通する貫通穴を備えると共に、複数並列に配置され、気密性容器からの放射光を放射する側における角部が連結され、  
反射部材が前記気密性容器からの放射光を放射するための開口を備えるととも前記第 2 の電極の外側に配置されていることを特徴とする放電灯装置。

【請求項 7】

前記ホルダーは、複数並列に配置され、気密性容器からの放射光を放射する側における角部が連結されていることを特徴とする請求項 1 から 5 のいずれか一つに記載の放電灯装置。

【請求項 8】

前記ホルダーは、気密性容器からの放射光を放射する側において気密性容器の外径よりも狭い幅の離隔部が形成されていることを特徴とする請求項 1 から 7 のいずれか一つに記載の放電灯装置。

【請求項 9】

前記所定の間隔は、最短が 0 . 1 m m 以上 2 . 0 m m 以下であることを特徴とする請求項 1 から 8 のいずれか一つに記載の放電灯装置。

【請求項 10】

前記放電媒体は、少なくともキセノンガスを含み、気密性容器の内周面に蛍光体層が積層されていることを特徴とする請求項 1 から 9 のいずれか一つに記載の放電灯装置。